

第7回福祉用具専門相談員研究大会 開催報告書

第7回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会

第7回福祉用具専門相談員研究大会概要

【開催日】 令和8年6月17日（水）

【大会テーマ】 2040年を見据えた福祉用具支援の進化
～福祉用具専門相談員の役割とPDCAサイクルの
好循環モデルの構築～

【会場】 KFC ホール（国際ファッションセンター）
（東京都墨田区横網一丁目6番地1号） ※オンライン併用

【主催】 第7回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会

【共催】 一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
一般社団法人日本福祉用具供給協会

【大会長】 岩元 文雄（一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会 理事長）

【副大会長】 柴橋 和弘（一般社団法人日本福祉用具供給協会 副理事長）

【大会概要】 特別講演1題・口述発表38題

【参加者数】 1,226名（現地参加337名、オンライン参加889名）

【後援】 厚生労働省、東京都福祉局

（一社）回復期リハビリテーション病棟協会、（公社）関西シルバーサービス協会、
（一社）こうしゅくゼロ推進協議会、国際医療福祉大学大学院、姿勢活動ケア研究会、
（一社）シルバーサービス振興会、（一社）全国介護事業者連盟、（公社）全国国民
健康保険診療施設協議会、（一社）全国デイ・ケア協会、（一社）全国福祉用具人材育成
協会、全国福祉用具相談・研修機関協議会、（公社）全国老人福祉施設協議会、（公社）
全国老人保健施設協会、（公財）テクノエイド協会、（特非）東京都介護支援専門員
研究協議会、（一社）ナチュラルハートフルケアネットワーク、（公社）日本医師会、
（一社）日本介護支援専門員協会、（公社）日本介護福祉士会、（一社）日本義肢協会、
（一社）日本車椅子シーティング協会、（一財）日本車椅子シーティング財団、
（一社）日本ケアマネジメント学会、（一社）日本言語聴覚士協会、（一社）日本在宅
介護協会、（一社）日本作業療法士協会、（公社）日本社会福祉士会、（一社）日本褥瘡
学会、（一社）日本生活支援工学会、（一社）日本ノーリフト協会、（一社）日本福祉
用具・生活支援用具協会、（公財）日本訪問看護財団、（公社）日本理学療法士協会、
（公社）日本リハビリテーション医学会、（特非）日本リハビリテーション看護学会、
（一社）日本リハビリテーション工学協会、（一社）日本リハビリテーション病院・
施設協会、福祉用具プランナー研究ネットワーク ※50音順

第7回福祉用具専門相談員研究大会 開催報告
大会テーマ：2040年を見据えた福祉用具支援の進化
～福祉用具専門相談員の役割とPDCAサイクルの
好循環モデルの構築～

令和8年6月17日（水）、第7回福祉用具専門相談員研究大会を開催いたしました。

本大会は、昨年に引き続き現地とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式で開催し、現地337名、オンライン889名、合計1,226名の皆様にご参加いただきました。全国各地から多数のご参加を賜り、おかげをもちまして盛会のうちに終了することができました。

開会にあたり、岩元大会長からは、「介護保険制度施行から四半世紀が経過し、科学的介護や介護DXの推進、エビデンスに基づくサービス評価など、福祉用具専門相談員に求められる役割はますます高度化・多様化しています。2040年を見据え、専門職としてPDCAサイクルを着実に実践し、利用者一人ひとりの生活の質の向上につなげていくことが重要であり、その積み重ねが福祉用具専門相談員自身の成長と地域社会からの信頼につながります。」と、大会テーマに基づいた挨拶がありました。

そして、来賓を代表して厚生労働省老健局高齢者支援課福祉用具・住宅改修指導官の野上雅子様よりご祝辞を賜りました。

続く特別講演では、株式会社善光総合研究所代表取締役社長の宮本隆史様より、「介護DXによる生産性向上と働き方改革」をテーマに、介護現場における介護ロボットやICTなどのテクノロジーの活用事例を交えながら、介護DXによる生産性向上とサービス品質の向上についてご講演いただきました。また、今後の在宅介護におけるテクノロジーの活用や、福祉用具専門相談員に期待される役割についても分かりやすくご紹介いただきました。

午後からは3つの会場に分かれて口述発表がそれぞれ実施されました。

第一会場では内田正剛座長による口述1「2040年を見据えた福祉用具支援」、長倉寿子座長による口述2「福祉用具利用効果の可視化とPDCAサイクルに基づく実践的評価」の発表が行われました。

第二会場では、小林広美座長による口述3「地域・多職種・安全利用の取組」、森島勝美座長による口述4「利用者と家族の安全安心を実現するリフトの導入」の発表が行われました。

第三会場では、小松優太座長による口述5「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例（チャレンジ発表）」の発表が行われたあと、老健事業等の報告が行われました。

全ての演題発表終了後には、第一会場においてシンポジウムを開催しました。柴橋和弘副大会長がコーディネーターを務め、各口述発表の座長5名がシンポジストとして登壇し、それぞれ担当演題の総括を行いました。その後、第8回大会に向けた提言やエールが述べられるとともに、参加者との質疑応答を交えながら、「2040年を見据えた福祉用具支援の進化」という大会テーマについて理解を深める有意義な討議の場となりました。

最後に閉会式では、第8回福祉用具専門相談員研究大会の大会長を務める柴橋和弘副大会長より、本大会への支援・協力に対する感謝の言葉とともに、次回大会への抱負が述べられ、第7回福祉用具専門相談員研究大会は盛況のうちに閉幕いたしました。

第7回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【開会式】

10:00～10:30

(第一会場)

開会挨拶 岩元文雄 大会長



来賓挨拶 厚生労働省老健局高齢者支援課 野上雅子 様

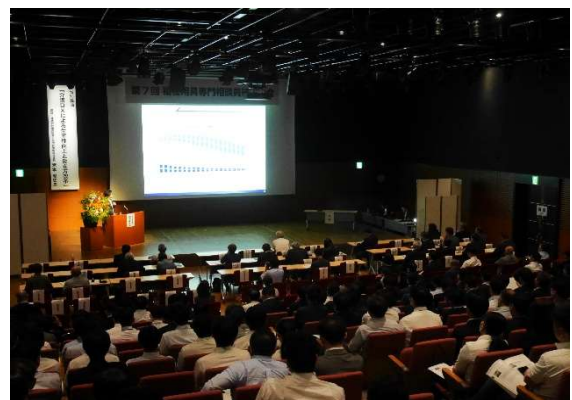


【特別講演】

10:30～11:30

(第一会場)

講師 株式会社善光総合研究所 代表取締役社長 宮本 隆史 様
演題 介護DXによる生産性向上と働き方改革

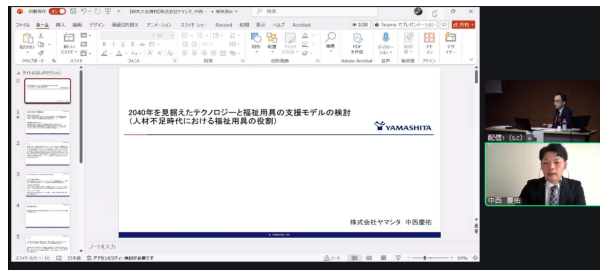


第7回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【口述発表1】2040年を見据えた福祉用具支援

(第一会場) 12:50~14:15

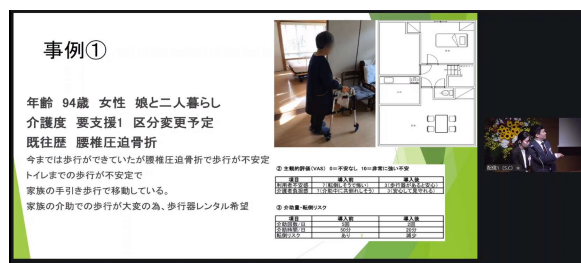
座長：医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院 リハケア部門 部門長
内田 正剛 氏



【口述発表2】福祉用具利用効果の可視化とPDCAサイクルに基づく実践的評価

(第一会場) 14:35~16:00

座長：一般社団法人日本作業療法士協会 事務局長 長倉 寿子 氏



【口述発表3】地域・多職種・安全利用の取組

(第二会場) 12:50~14:15

座長：一般社団法人日本介護支援専門員協会 副会長 小林 広美 氏



【口述発表4】利用者と家族の安全安心を実現するリフトの導入

(第二会場) 14:35~15:40

座長：一般社団法人日本福祉用具・生活支援用品協会 (JASPA)
介護リフト普及協会 会長 森島 勝美 氏



第7回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【口述発表5】経験3年未満相談員の福祉用具導入事例（チャレンジ発表）

（第三会場） 12：50～14：15

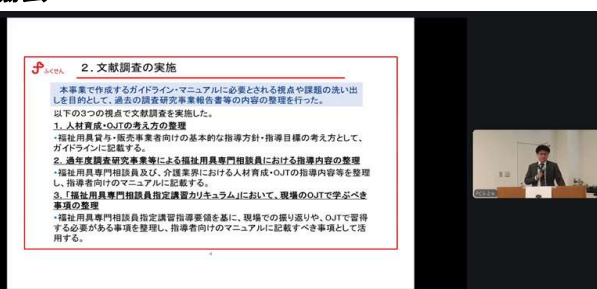
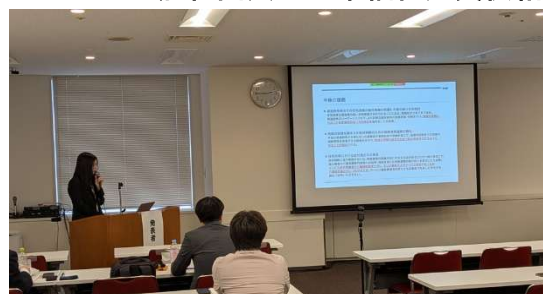
座長：株式会社かんきょう 営業本部 首都圏営業部 埼玉支店 支店長
小松 優太 氏



【事業報告】 老健事業等報告

（第三会場） 14：35～15：25

報告者：エム・アール・アイ リサーチソリュツ株式会社
一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
一般社団法人日本福祉用具供給協会



【ランチョンセミナー】

11：40～12：20

（第二・第三・第四会場）

協賛：パラマウントヘルスケア総合研究所
WHILL株式会社
シーホネンス株式会社



第7回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【シンポジウム】

16 : 20～17 : 30

(第一会場)

コーディネーター：柴橋和弘副大会長

シンポジスト：内田座長、長倉座長、小林座長、森島座長、小松座長



【閉会式】

17 : 30～17 : 40

(第一会場)

閉会挨拶 柴橋和弘副大会長



【懇親会】

17 : 55～19 : 20

(懇親会場)



第7回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表1 【演題一覧】

時間：12:50～14:15

会場：第一会場(3階KFCホール)

テーマ 2040年を見据えた福祉用具支援

座長：内田 正剛 氏(医療法人堀尾会 理事 熊本託麻台リハビリテーション病院 リハケア部門 部門長 作業療法士)

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	中村 太祐	株式会社トーカイ	車いす利用時におけるスロープ設置の現状と課題に関する調査
2	大田 健介	株式会社カクイックスウィング	施設の業務方針に寄り添う見守り機器(A.I.Viewlife)の導入事例 ～在宅支援で培ったノウハウを生かした伴走型支援のあり方について～
3	宮原 宏文	フランスベッド株式会社	福祉用具導入がもたらす外出機会の拡大と家族支援
4	児玉 暁	株式会社ジェー・シー・アイ	生成AIを用いた福祉用具専門相談員業務支援の研究(業務見直しと会話入力音声から要約の要点整理)
5	石田 侑靖	株式会社ライフ・テクノサービス	AI技術を活用した福祉用具支援の可能性と今後の展望 2040年を見据えた介護現場の負担軽減とQOL向上への取り組み
6	丸山 慶太	株式会社カクイックスウィング	同一拠点のケアマネジャーとのPDCAサイクルがもたらす支援の質向上に関する一考察 ～情報共有のスピードと機器選定の精度向上に着目して～
7	中西 慶佑	株式会社ヤマシタ	2040年を見据えたテクノロジーと福祉用具の支援モデルの検討 (人材不足時代における福祉用具の役割)
8	巖 英二	パラマウントヘルスケア総合研究所	特殊寝台の背上げ角度が高齢者の起き上がり動作時の主観的負担感と重心移動効率に与える影響(国立長寿医療研究センターでの計測に基づく実践指針の提示)

第7回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表2 【演題一覧】

時間：14:35～16:00

会場：第一会場(3階KFCホール)

テーマ 福祉用具利用効果の可視化とPDCAサイクルに基づく実践的評価

座長：長倉 寿子 氏（一般社団法人日本作業療法士協会 事務局長）

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	大川原 究	株式会社同仁社	体圧分散の可視化によるマットレス選定の有効性
2	杉本 祐一	株式会社トーカイ	車いすクッションの選定における定量調査 （測定機器を用いて数値とグラデーションにて座圧を測定）
3	松本 和也	株式会社松永製作所	身体状況の変化に応じた福祉用具導入と他サービスとの連携
4	松井 富士	株式会社柴橋商会	意思を行動に変える段階的福祉用具支援の実践 （重度状態から歩行再獲得に至った事例）
5	岩崎 萌香 川野 正彦	株式会社ヤマシタ	認知症利用者の危険回避における福祉用具サービスの提供
6	根岸 優太	株式会社トーカイ	認知症高齢者の在宅生活を支える徘徊感知機器の活用
7	片山 敬之	株式会社トーカイ	突っ張り棒型手すり導入による、利用者の身体的・精神的変化について
8	青島 玲央 柴崎 ほのか	フランスベッド株式会社	利用者の身体状況や家屋状況で得られた内容を評価 評価シートを用いた福祉用具の可視化と効果

第7回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表3 【演題一覧】

時間：12:50～14:15

会場：第二会場(11階Room111)

テーマ 地域・多職種・安全利用の取組

座長：小林 広美 氏（一般社団法人日本介護支援専門員協会 副会長）

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	村上 祐太	株式会社柴橋商会	多職種連携による夢の実現 (嚥下機能低下により難しいと言われたカツ丼を食べるまで)
2	金澤 敬人	株式会社かんぎょう	地域包括ケアにおける福祉用具専門相談員の関わり
3	鹿島 美恵子 東畠 弘子	東京都健康長寿医療センター研究所 国際医療福祉大学大学院	地域在住高齢者の杖・シルバーカーに対する認識と 歩行機能低下との関連 (東京都A区の地域在住高齢者を対象とした質問紙 調査)
4	小川 遼馬	株式会社ヤマシタ	地域リハビリテーション支援拠点および地域包括支 援センターとの連携による福祉用具導入事例
5	猪野 新一郎	エイジライフ株式会社	地域・多職種連携の中で、独居の方の在宅復帰に向 けた福祉用具専門相談員の役割 (不安のないスムーズな在宅復帰のためにできる事)
6	大石 修平	日本基準寝具株式会社	介護テクノロジー導入事例から見える成果と課題 そして未来 (福祉用具専門相談員は介護DX化にどう関わるべき か)
7	中川 汰一	日本基準寝具株式会社	予後予測に基づいた「先回り」の生活環境整備
8	今井 儀	株式会社ジェー・シー・アイ	高齢者福祉施設における福祉用具・ヒヤリハット研 修 実践事例報告

第7回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表4 【演題一覧】

時間：14:35～15:40

会場：第二会場(11階Room111)

テーマ 利用者と家族の安全安心を実現するリフトの導入

座長：森島 勝美 氏 (一般社団法人 日本福祉用具・生活支援用品協会 (JASPA) 介護リフト普及協会 会長)

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	黒田 修平	フランスベッド株式会社	行政制度を活用したリフト・段差解消機導入の実践と介助負担軽減効果 障害者の生活改善に寄与する福祉用具専門相談員の役割
2	川原 樹里	株式会社ヤマシタ	在宅介護での介護ロボットの活用事例 (移乗サポートリフト Hug を利用した移乗介助時の介助負担軽減を目的として)
3	熊谷 佳浩	株式会社ヤマシタ	指定難病である利用者への Hug 導入による移乗支援と家族介護負担軽減の実践事例
4	菅原 英真	株式会社サンメディカル	諦めかけていた在宅介護を実現！ ～家族の腰と心を守る福祉用具の力～
5	水越 良行	株式会社ヤマシタ	リフト不適合事例から導入の課題を考える
6	大澤 涼花	株式会社ジェー・シー・アイ	介護従事者の移動用リフトに対するイメージ調査と、認知度を上げるための方法の検討

第7回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表5 【演題一覧】

時間：12:50～14:15

会場：第三会場(11階Room113)

テーマ 経験3年未満相談員の福祉用具導入事例(チャレンジ発表)

座長：小松 優太 氏(株式会社かんきょう 営業本部 首都圏営業部 埼玉支店 支店長)

No.	発表者	所属	演題 (副題)
1	青木 恵理	株式会社ヤマシタ	在宅生活支援における福祉用具導入の検討 (両足性痙縮および深部感覚障害をもつ利用者に対して)
2	鹿又 頼	株式会社ジェー・シー・アイ	終末期在宅療養における状態変化を踏まえた福祉用具変更の実践 (多職種連携により安楽確保につながった事例)
3	永井 友樹	株式会社ヤマシタ	家族の強い拒否に対する多職種連携による床ずれ防止用具導入の取り組み (入社1年目相談員による意思決定支援の実践)
4	内田 一成	株式会社ヤマシタ	理学療法士、工務店営業として働いてきた経験を活かしたアセスメントの実践
5	村田 智春	株式会社ウィードメディカル	AI活用による業務効率化と提案の質の向上
6	岡本 拓磨 井口 真愛	株式会社ヤマシタ	写真付きの報告書を活用したケアマネジャーとの連携の有用性に関して
7	津田 賢弥 北本 紘子	株式会社ヤマシタ	押し入れスペースを活用したトイレ新設の有効性 (独居高齢者の夜間移動負担軽減に向けて)
8	池田 紗貴	株式会社ライフ・テクノサービス	パーキンソン病における排泄動作に対する困難事例の検討と排泄予測支援機器の導入

第7回福祉用具専門相談員研究大会 参加者アンケート集計結果

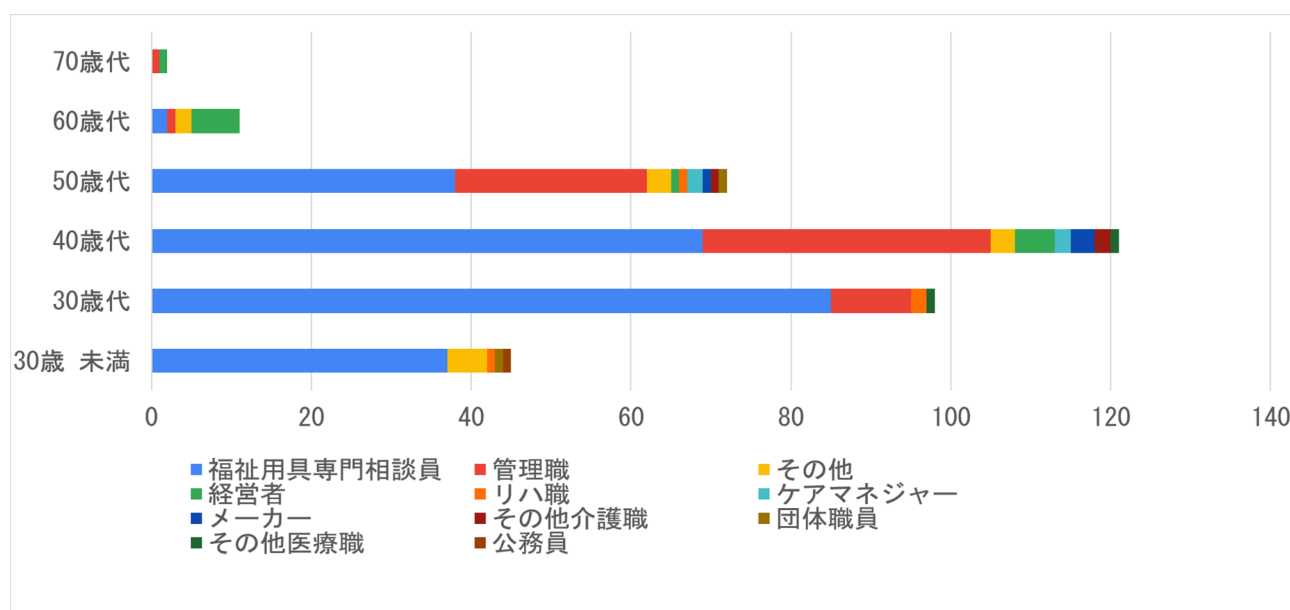
アンケート概要

- 実施時期：2026年6月17日（水）～30日（火）
- 調査方法：eメールによるwebアンケート様式の配布・回収
- 回収状況：発送数1,168人／回収数349人／回収率29.9%

1. 回答者の基本属性について

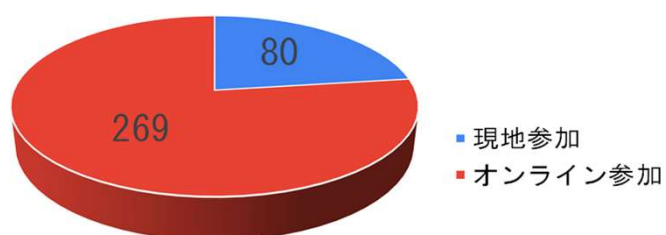
（単位：人）

	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	総計	構成比
福祉用具専門相談員	37	85	69	38	2		231	66.2%
管理職		10	36	24	1	1	72	20.6%
その他	5		3	3	2		13	3.7%
経営者			5	1	6	1	13	3.7%
リハ職	1	2		1			4	1.1%
ケアマネジャー			2	2			4	1.1%
メーカー			3	1			4	1.1%
その他介護職			2	1			3	0.9%
団体職員	1			1			2	0.6%
その他医療職		1	1				2	0.6%
公務員	1						1	0.3%
総計	45	98	121	72	11	2	349	100.0%
構成比	12.9%	28.1%	34.7%	20.6%	3.2%	0.6%	100.0%	



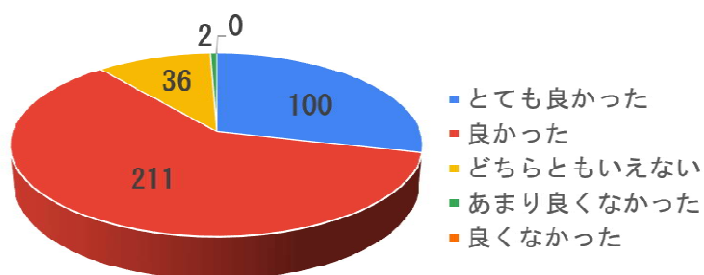
2. 参加方法について

	人数	構成比
現地参加	80	22.9%
オンライン参加	269	77.1%
総計	349	100.0%



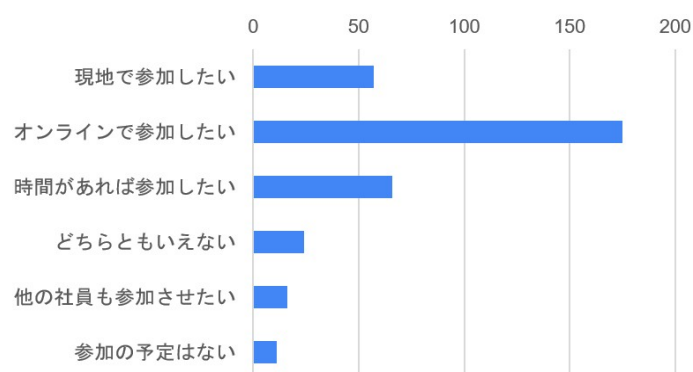
3. 全体の感想について

	人数	構成比
とても良かった	100	28.7%
良かった	211	60.5%
どちらともいえない	36	10.3%
あまり良くなかった	2	0.6%
良くなかった	0	0.0%
総計	349	100.0%



4. 次回の参加について（複数回答）

	人数	割合
現地で参加したい	57	16.3%
オンラインで参加したい	175	50.1%
時間があれば参加したい	66	18.9%
どちらともいえない	24	6.9%
他の社員も参加させたい	16	4.6%
参加の予定はない	11	3.2%
総計	349	100.0%



5. アーカイブ配信について

	人数	構成比
視聴する予定	229	65.6%
視聴しない	120	34.4%
総計	349	100.0%



6. その他ご意見など（自由記述）

自由記述カテゴリ	件数
運営に問題はなかった	13
その他	9
勉強になった	9
演題数が多すぎる	3
機材の不具合が気になった	3
継続して欲しい	3
発表時間が短すぎる	1
総計	41

第7回福祉用具専門相談員研究大会

6月17日(水) 東京・両国で開催

口述発表① 2040年を見据えた福祉用具支援

福祉用具の活用は、高齢者の生活の質を向上させる重要な手段である。しかし、現状では、福祉用具の活用が十分に進んでいない。その理由の一つは、福祉用具の活用に関する情報が不足していることである。また、福祉用具の活用に関する情報が、高齢者やその家族に届いていないことも原因の一つである。そこで、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みが必要である。本大会では、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みについて、口述発表が行われる。また、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みについて、シンポジウムが行われる。

パラマウントベッド株式会社 山本 英一さん
特殊寝台の背上げ角度に関する調査研究を発表

口述発表③ 地域・多職種・安全利用の取組

福祉用具の活用は、高齢者の生活の質を向上させる重要な手段である。しかし、現状では、福祉用具の活用が十分に進んでいない。その理由の一つは、福祉用具の活用に関する情報が不足していることである。また、福祉用具の活用に関する情報が、高齢者やその家族に届いていないことも原因の一つである。そこで、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みが必要である。本大会では、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みについて、口述発表が行われる。また、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みについて、シンポジウムが行われる。

日本基準委員 大石 修平さん
「在宅テック活用」の柱になりたい

口述発表⑤ 経験3年未満相談員の福祉用具導入事業(チャレンジ発表)

福祉用具の活用は、高齢者の生活の質を向上させる重要な手段である。しかし、現状では、福祉用具の活用が十分に進んでいない。その理由の一つは、福祉用具の活用に関する情報が不足していることである。また、福祉用具の活用に関する情報が、高齢者やその家族に届いていないことも原因の一つである。そこで、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みが必要である。本大会では、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みについて、口述発表が行われる。また、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みについて、シンポジウムが行われる。

ライフテックサービス 池田 紗貴さん
予測に基づくトイレ誘導で負担大幅軽減

6月17日(水)に東京・KFC ホール(オンライン併用)で「第7回福祉用具専門相談員研究大会」が開催された。口述発表は①2040年を見据えた福祉用具支援②福祉用具利用効果の可視化とPDCAサイクルに基づく実践的評価③地域・多職種・安全利用の取組④利用者と家族の安全安心を実現するリフトの導入⑤経験3年未満相談員の福祉用具導入事業(チャレンジ発表)の5テーマ・全38演題。現場で培った福祉用具専門相談員の実践や知見、調査結果を発表する。登壇者へ発表の意とところや意気込みを聞いた。



今年の特別講演では、福祉総合研究所の専任理事氏が「介護DXによる生産性向上と働き方改革」をテーマに登壇。

口述発表② 福祉用具利用効果の可視化とPDCAサイクルに基づく実践的評価

福祉用具の活用は、高齢者の生活の質を向上させる重要な手段である。しかし、現状では、福祉用具の活用が十分に進んでいない。その理由の一つは、福祉用具の活用に関する情報が不足していることである。また、福祉用具の活用に関する情報が、高齢者やその家族に届いていないことも原因の一つである。そこで、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みが必要である。本大会では、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みについて、口述発表が行われる。また、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みについて、シンポジウムが行われる。

ヤマシタ 岩崎 尚希さん、川野 止彦さん
GPSで脱水の重症化防ぎ

口述発表④ 利用者と家族の安全安心を実現するリフトの導入

福祉用具の活用は、高齢者の生活の質を向上させる重要な手段である。しかし、現状では、福祉用具の活用が十分に進んでいない。その理由の一つは、福祉用具の活用に関する情報が不足していることである。また、福祉用具の活用に関する情報が、高齢者やその家族に届いていないことも原因の一つである。そこで、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みが必要である。本大会では、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みについて、口述発表が行われる。また、福祉用具の活用に関する情報を、高齢者やその家族に届けるための取り組みについて、シンポジウムが行われる。

サンメディカル 菅原 英典さん
諦めかけていた在宅復帰から3年の歩み

楽匠Fit
介護用ベッド 楽匠フィットシリーズ

身体をすくすく伸ばす伸縮自在のベッド。より動きやすくなる毎日。商品タッチパネル付。元々、楽匠フィットシリーズは、あなたの生活をより快適にするためのベッドです。

「楽匠フィットシリーズ」の詳しい情報は、QRコードで検索してください。

0120-03-3648
03-5561-0100
パラマウントベッド株式会社

ベッドが変わると、人生の景色も変わる。

シルバー産業新聞 電子版とのセットがお得!

新聞 8,800円/年 (定価)
電子版 6,000円/年 (定価)
年間 14,800円のところ
5,300円 おトクです!

セットで 1年 **9,500円** (税・送料込)

詳しくは、本紙ウェブサイトにて! <https://www.care-news.jp>

※専用アプリで

プラス特典 バックナンバー1年分が電子版で読めます!

第7回福祉用具専門相談員研究大会ダイジェスト

「2040年を見据えた福祉用具支援の進化」

口述発表②
福祉用具利用効果の可視化と
PDCAサイクルに基づく実践的評価

「突っ張り棒型手すりの心理的効果を検証」

「突っ張り棒型手すり」は、高齢者の転倒予防に有効な福祉用具の一つである。しかし、その利用効果は、従来の評価方法では十分に把握できていない。本研究では、PDCAサイクルに基づく実践的評価を行い、突っ張り棒型手すりの利用効果の可視化を図ることを目的とした。

調査対象は、高齢者の自宅に突っ張り棒型手すりを設置した家族である。調査期間は、設置前と設置後1ヶ月間。調査項目は、転倒回数、歩行速度、心理的負担感などである。

結果として、設置後の転倒回数は設置前と比較して減少した。また、歩行速度も向上した。心理的負担感についても、設置後のほうが軽減された。以上の結果から、突っ張り棒型手すりの利用は、高齢者の転倒予防に有効であることが示された。

口述発表①
2040年を見据えた
福祉用具支援

生成AIを用いた
専門相談員の業務支援を研究

高齢化が進む中、福祉用具の需要はますます増加している。しかし、専門相談員の不足が大きな課題となっている。本研究では、生成AIを用いた専門相談員の業務支援を研究し、業務効率の向上を図ることを目的とした。

調査対象は、福祉用具専門相談員の業務内容である。調査期間は、研究期間中。調査項目は、相談内容、支援内容、相談時間などである。

結果として、生成AIを用いた業務支援は、専門相談員の業務効率を向上させた。また、相談員の負担も軽減された。以上の結果から、生成AIを用いた業務支援は、福祉用具専門相談員の業務支援に有効であることが示された。

開 会 式
岩元文雄大会長あいさつ

「日々のPDCAが専門相談員の成長に」

岩元文雄 会長

本日は、第7回福祉用具専門相談員研究大会が開催されています。この大会は、福祉用具専門相談員の業務支援に関する研究を推進し、専門相談員の成長を図ることを目的としています。

日々のPDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクルを実践することで、専門相談員の業務効率を向上させ、高齢者の福祉用具利用をサポートすることができます。

6月17日、東京都内のKPCホールで「第7回福祉用具専門相談員研究大会」が開催された。会場337人・オンライン880人の計1,220人が参加し、大いに学びと交流を促める1日となった。今回の大会テーマは「2040年を見据えた福祉用具支援の進化〜福祉用具専門相談員の役割とPDCAサイクルの好循環モデルの構築〜」。

5テーマ38演題の口述発表では、現場における福祉用具専門相談員の実践や知見が惜しみなく披露された。本特集では、多角的な視点で設定された各テーマの発表を振り返る。高齢化と現役世代の減少が加速する2040年に向け、福祉用具サービスや福祉用具専門相談員のあり方を展望する。



口述発表⑤
経験3年未満相談員の福祉用具
導入事例(チャレンジ発表)

新人支援へAI活用、広範に

「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例」は、新人相談員の業務支援に関する研究である。本研究では、AIを活用した新人相談員の業務支援を研究し、業務効率の向上を図ることを目的とした。

調査対象は、経験3年未満の福祉用具専門相談員の業務内容である。調査期間は、研究期間中。調査項目は、相談内容、支援内容、相談時間などである。

結果として、AIを活用した業務支援は、新人相談員の業務効率を向上させた。また、相談員の負担も軽減された。以上の結果から、AIを活用した業務支援は、新人相談員の業務支援に有効であることが示された。

口述発表④
利用者と家族の安心安全を
実現するリフトの導入

リフト導入における多職種協働のハブに

「利用者と家族の安心安全を実現するリフトの導入」は、リフトの導入に関する研究である。本研究では、リフトの導入による利用者と家族の安心安全の実現を研究し、リフトの導入の促進を図ることを目的とした。

調査対象は、リフトを導入した利用者と家族の状況である。調査期間は、研究期間中。調査項目は、リフトの導入状況、利用者の状況、家族の状況などである。

結果として、リフトの導入は、利用者と家族の安心安全を実現させた。また、リフトの導入の促進にも貢献した。以上の結果から、リフトの導入は、利用者と家族の安心安全の実現に有効であることが示された。

口述発表③
地域・多職種・
安全利用の取組

要介護5から「カツ丼食べたい」叶える

「地域・多職種・安全利用の取組」は、地域・多職種・安全利用の取組に関する研究である。本研究では、地域・多職種・安全利用の取組による利用者の生活の質の向上を研究し、地域・多職種・安全利用の取組の促進を図ることを目的とした。

調査対象は、地域・多職種・安全利用の取組を実施した利用者の状況である。調査期間は、研究期間中。調査項目は、地域・多職種・安全利用の取組状況、利用者の状況などである。

結果として、地域・多職種・安全利用の取組は、利用者の生活の質を向上させた。また、地域・多職種・安全利用の取組の促進にも貢献した。以上の結果から、地域・多職種・安全利用の取組は、利用者の生活の質の向上に有効であることが示された。

口述発表⑥
と働き方改革

と働き方改革

「と働き方改革」は、働き方改革に関する研究である。本研究では、働き方改革による従業員の働きやすさの向上を研究し、働き方改革の促進を図ることを目的とした。

調査対象は、働き方改革を実施した従業員の状況である。調査期間は、研究期間中。調査項目は、働き方改革状況、従業員の状況などである。

結果として、働き方改革は、従業員の働きやすさを向上させた。また、働き方改革の促進にも貢献した。以上の結果から、働き方改革は、従業員の働きやすさの向上に有効であることが示された。

福祉用具相談員の専門性向上へ

2040年見据えPDCAの実践強調

全国福祉用具専門相談員協会と日本福祉用具供給協会は17日、都内で福



岩元 大会長

福祉用具専門相談員研究会を開催した。会場とオンラインを合わせて1219人が参加し、2040年を見据えた福祉用具専門相談員の役割や実践の質向上について議論した。

開会あいさつで大会長

を務めた日本福祉用具供給協会の岩元文雄理事長は、介護保険制度の開始から25年が経過するなか、科学的介護やDXの推進により、福祉用具専門相談員には従来以上に専門性が求められていると指摘。「単なる商品提供者ではなく、利用者の生活を再構築する専門職としての力量が問われている」と話した。

また、適切なアセスメントや提案に加え、利用者への支援の成果を検証して次の支援に生かすPDCAサイクルの実践が重要と強調。利用者の生活の質向上だけでなく、専門職自身の成長にもつながるこの考えを示した。

さらに、団塊ジュニア世代が高齢期を迎える2040年に向け、人材不足や介護ニーズの多様化、AI・ICTの進展などへの対応が課題になるとし、「地域社会の中で信頼される存在であり続けることが私たちの使命だ」と呼びかけた。

推奨外のスロープに安全対策を

福祉用具活用事例を報告

6月17日に開催された福祉用具専門相談員研究会では、シンポジウムなどのほか口述発表も行われた。現場で福祉用具に携わる専門相談員らが、車いす用スロープの設置実態や外出支援の事例を報告し、利用者の安全性確保やQOL向上に向けた実践事例を紹介した。

トーカーの中村太祐氏は「車いす利用時におけるスロープ設置の現状と課題に関する調査をテーマに発表。2026年1〜2月に同社8拠点の専門相談員を対象に実施した調査では、持ち運び式スロープを設置した84件を分析した。

その結果、ガイドラインの推奨を超える11度以上の急勾配で設置されたケースが34件と約4割を占めていた。住宅の敷地や間取りの制約が主要因だったが、スロープが長く重くなることや費用負担を考慮し、あえて短いスロープを選択した事例もみられたという。

推奨外の設置では、デイスリーブ職員やリハビリ職など多職種と連携し、実機による検証や、担当者会議での情報共有、写真・動画を活用した安全対策などを行った。

中村氏は「多職種が共通認識を持って連携し、利用者の状況に応じた支援体制を構築することが、安全性と利便性の両方に重要だ」と話した。

フランスベッドの宮原宏文氏は「福祉用具導入がもたらす外出支援の拡大と家族支援」をテーマに事例を報告した。車いす生活となり、外出が困難になった高齢女性に對

し、階段昇降リフトを導入。7段の階段が障壁となり、家族の介助がなければ外出できなかったが、リフトの設置後は家族の身体的・心理的負担が軽減され、本人も日常的に公園へ出掛けられるようになったという。



5テーマ38演題での口述発表も行われた

第7回福祉用具専門相談員研究大会



2040年を見据えた 福祉用具支援の進化

～ 福祉用具専門相談員の役割と
PDCAサイクルの好循環モデルの構築 ～

祝辞

安藤 たかお（あんど う たかお）衆議院議員
伊藤 孝江（いとう たかえ）参議院議員
勝目 康（かつめ やすし）衆議院議員
かまやち 敏（かまやち さとし）参議院議員
田村 憲久（たむら のりひさ）衆議院議員

動画アーカイブ

第1会場（3階 KFCホール）

開会式

特別講演「介護DXによる生産性向上と働き方改革」

講師：宮本 隆史氏（株式会社善光総合研究所 代表取締役社長）



開会式	00:00:04～
特別講演	00:19:10～

口述発表1「2040年を見据えた福祉用具支援」

座長：内田 正剛氏（医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院）



中村 太祐	00:01:47～
大田 健介	00:13:48～
宮原 宏文	00:25:47～
児玉 暁	00:34:43～
石田 侑靖	00:45:12～
丸山 慶太	00:55:54～
中西 慶佑	01:05:09～
巖 英二	01:14:11～

口述発表2「福祉用具利用効果の可視化とPDCAサイクルに基づく実践的評価」

座長：長倉 寿子氏（一般社団法人日本作業療法士協会 事務局長）



大川原 究	00:06:57～
杉本 祐一	00:15:05～
松本 和也	00:24:53～
松井 富士	00:35:21～
岩崎 萌香・川野 正彦	00:45:32～
根岸 優太	00:55:27～
片山 敬之	01:05:27～
青島 玲央・柴崎 ほのか	01:15:58～

シンポジウム・閉会式



シンポジウム	00:04:00～
閉会式	00:41:31～

第2会場（11階 Room 111）

ランチョンセミナー 1

介護支援専門員が語る福祉用具専門相談員に期待すること～PDCAの好循環を共に創る～
柴口 里則氏（一般社団法人日本介護支援専門員協会 会長）



ランチョンセミナー 1

00:00:00～

口述発表3「地域・多職種・安全利用の取組」

座長：小林 広美氏（一般社団法人日本介護支援専門員協会 副会長）



村上 祐太	00:01:20～
金澤 敬人	00:10:32～
鹿島 美恵子・東畠 弘子	00:19:07～
小川 遼馬	00:30:37～
猪野 新一郎	00:43:19～
大石 修平	00:53:29～
中川 汰一	01:03:53～
今井 儀	01:12:17～

口述発表4「利用者と家族の安全安心を実現するリフトの導入」

座長：森島 勝美氏（一般社団法人日本福祉用具・生活支援用品協会（JASPA）介護リフト普及協会 会長）



黒田 修平	00:01:37～
川原 樹里	00:16:14～
熊谷 佳浩	00:23:53～
菅原 英真	00:37:09～
水越 良行	00:49:45～
大澤 涼花	01:01:13～

第3会場（11階 Room 113）

ランチョンセミナー2

ケアマネジャー視点で読み解く移動課題と外出支援の最新動向～通信機能付き福祉用具によるモニタリングの可能性～

池田 朋宏氏（WHILL株式会社 執行役員 メディカル事業本部本部長）



ランチョンセミナー2

00:00:00～

口述発表5「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例（チャレンジ発表）」

座長：小松 優太氏（株式会社かんきょう 営業本部 首都圏営業部 埼玉支店 支店長）



青木 恵理

00:02:19～

鹿又 頼

00:13:07～

永井 友樹

00:22:47～

内田 一成

00:31:34～

村田 智春

00:43:06～

岡本 拓磨・井口 真愛

00:55:54～

津田 賢弥・北本 紘子

01:07:02～

池田 紗貴

01:16:49～

老健事業等報告（第3会場）

老健事業等報告



柿迫 栞緒

00:00:04～

江口 誠

00:10:18～

伊藤 広成

00:21:09～

※第4会場（ランチョンセミナー3）のアーカイブ公開はございません。

ログアウト >

第7回福祉用具専門相談員研究大会 大会組織

大会長 岩元 文雄 （一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会理事長）
副大会長 柴橋 和弘 （一般社団法人日本福祉用具供給協会副理事長）
大会顧問 幸田 正孝 （元 厚生省事務次官）
山内 繁 （元 国立障害者リハビリテーションセンター研究所長）

第7回福祉用具専門相談員研究大会 実行委員会

委員長 中川 敬史 （株式会社ライフ・テクノサービス）
倫理委員会委員長 白澤 政和 （国際医療福祉大学大学院）
査読委員会委員長 東畠 弘子 （国際医療福祉大学大学院）
委員 千葉 博 （株式会社サカイ・ヘルス케어）
福島 伴彦 （株式会社カクイックスウィング）
安居 寛道 （株式会社トーカイ）
古沢 林太郎 （株式会社トーカイ）
池本 和樹 （株式会社トーカイ）
中沢 淳 （株式会社ジェー・シー・アイ）
伊藤 広成 （日本福祉用具供給協会）
渡邊 健一 （日本福祉用具供給協会）
淡路 陽子 （日本福祉用具供給協会）
多田 和史 （全国福祉用具専門相談員協会）
東谷 亮 （全国福祉用具専門相談員協会）
篠原 昌幸 （全国福祉用具専門相談員協会）
柳田 磨利子 （全国福祉用具専門相談員協会）
江口 誠 （全国福祉用具専門相談員協会）
運営協力 小林 毅 （日本医療科学大学）
顧問 酒井 博人 （総合メディカル株式会社）

第8回 福祉用具専門相談員研究大会

モニタリングを通じた福祉用具活用の質の向上
～継続的な評価と見直しの意義～

2027年6月22日(火) 開催

大会長

柴橋 和弘

一般社団法人 日本福祉用具供給協会 副理事長



会場

KFCホール

(国際ファッションセンター)

東京都墨田区横網一丁目6番1号

<https://www.tokyo-kfc.co.jp/>